



「マレーシアに永住しても」  
の覚悟

マレーシア 大和 輪光

マレーシアに来て早くも一週間が過ぎました。出発前は忙しい中、本当にお世話頂きました。又、心ならず落涙してご心配をおかけしました事、心からお詫び申し上げます。あの時は決して叱られてくやしくて泣いたのではありません。釈迦殿に於いて、離国の挨拶と祈りを捧げておりましたところ、方丈様の叱責が恰も慈父の言葉、厳父の叱りにも似

て、私の一言一句のようにも聞こえ、そのお気持ちに有難くもあり貴くもあり、方丈様との別れに、どうにも涙がこらえられなくなってしまうのです。自分でも何年ぶりぞ泣いたのか覚えておりませんが、止めどなく涙があふれ、その有難さに顔をくしやくしやにしながら、車を運転しておりました。方丈様のご苦勞人への優しさ、そして挫折感、痛いほど解るような気がしたのです。大変ご心配をおかけ致しました。

さて、マレーシアは思った以上に過しやすく、リンガム夫妻も献身的にメッタ・ビラ

の運営に頑張っております。

朝四時のまだ暗く涼しいうちから坐禅に励んでおります。

この十年間以上、三日以上の連続した休みをとった事なかった私が、このような充実した、すばらしい、一生を決定づけられるような体験ができたのも、偏に方丈様の寛大なお気持ちがあったからこそと、改めて感謝している次第です。

マレーシアに於ける曹洞禅・大乘仏教の現状を鑑みますと、私のような微力な者でも何とかして仏法を弘め、坐禅のすばらしさを弘める事ができたなら、何とすばらしい事

かと思えます。そして一人でも

仏教によって救う事ができたら、何と偉大なことでしょ

うか。そして将来、このマレーシアの地に、メッタ・ピラの敷地内に、善光寺別院の禅堂ができ、東南アジアの禅堂の中心になる事ができたら、何とすばらしい事でしょうか。その為ならば方丈様のご指導のもと、永住しても良い覚悟です。正に「行く先に我家ありりりかたつむり」の念で、このメッタ・ピラの毎日を過しています。本当に感謝をこめてこの手紙を認めています。いずれ方丈様に帰国報告ができる日を楽しみにしてお

ります。

多くの方々からの恩恵に

感謝

タイ 落合 隆

先日の一時期帰国の際には大変お世話になり、感謝にたえません。一日だけですが、両親の住む都営住宅で、一泊致しました。九十二歳になるほとんど目の見えていない父と、老人ボケの母は、それでも私に会えたことを大変喜んでくれました。両親、そして姉たちも私の出家を喜ばしい事と、歓迎し理解してくれております。しかしながら、現実の、

父が母の面倒を見、食事まで作っている姿を見ると、私自身も複雑なものがあります。

私は中学二年のころ、軽度の自閉症になり、半年ほど登校拒否の状態になった経験があります。その原因を父親の物質的、精神的な貧しさと思いつけて来たのですが、私のために朝食を作ってくれる父を見て、何か聖なるものが私の目の前にいる、といった思いにさせられました。

姉たちも私を気遣い、両親の事は何とか自分たちで、と考えてくれておりますが、それぞれが家族のあることです。

ので、今後、難しい面も出てくるかと推測しております。

便所掃除の仕事をしなから私を育ててくれた母。病弱な体で大工仕事を続けてきた父。

恩といえればこれほど大きなものはないのですが、出家者として未熟な私は、何かと迷う面もあります。

出家しているという事実だけでなく、内容的にははなはだ心許ない私です。方丈様はじめ、多くの方々からの恩恵を受けていることを感謝するばかりです。

成寿二十一号の「風の葬送」は幼稚な文章ですが、タイの貧しい村人の姿を少しでも伝

えられたなら幸いです。

七月下旬から十一月の始めまで、ワット・ルンポーソッドというところで雨期安居を過ごします。

どうぞ皆様健康で幸福な日々を送られることをタイ国よりお祈り致します。

宗門のためにご尽力  
本当に感動

茅ヶ崎市 波多野牧通

毎季『成寿』をご恵送いただきながら何もお手伝いせず、日頃から心苦しく思っております。特に留学生をお育ていただいている事は、今後何時

の日か大きな花が開くものと、黒田様を尊敬して止みません。

さて、大本山永平寺の傘松会から文を頼まれ、何にするか迷ったのですが、七月号に一文を載せる事となりました。

私の宗門との関係で黒田様をはずすことは出来ず、お名前をお借りしたお詫びと共に、今までのご無沙汰のお詫びのつもりで、一冊お送りさせていただきます。

私も三菱石油から関連会社に移り五年経ち、本年六月末から顧問となりました。

これからの人生をどうするか、今年一年ゆっくりと考える年令になりました。

お陰様で黒田様に可愛がっていただいた長男の処には、

長男、長女（五歳と二歳）の孫があり、又、帰国子女でご相談にのっていただいた私の長女は、結婚して、子供はありませんが夫（三和銀行）の転勤で、六月中旬、ロンドンに転居しました。本人は、高校を出たところなので懐かしがっていると思いますが、やはり日本が恋しいようで、電話をかけてきています。

黒田様のところでも昨年はお母上を亡くされた由、成寿で知りました。お参りもせずご無礼致しました。本文にてお詫び申し上げます。

奥様はじめ皆々様、特にお子様が皆様宗門のためにご尽力されている由、本当に感動致しております。日頃のご無沙汰のお詫び少々御身体にご留意の程お願い申し上げます。

